

2004 年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日

2005 年 1 月 31 日

I 概要

実践団体・担当者名	串本町 (担当者：杉本隆晴)	
連絡先	電話 0735-62-0555 (串本町役場)	
プランタイトル	海拔表示プレートを作って津波について考えよう	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・南海地震が発生する可能性が高いのは今世紀前半といわれており、その時に社会で重要な地位にある現在の中学生の子供たちに、将来にわたって地震や津波のことを考えてもらい続けるための一助として。 ・南海地震の発生確率は今後 30 年間で 50%といわれており、その意味では、明日起こってもおかしくないことから、自分たちが住んでいる地域の地理的条件を再確認し、防災意識の向上を図る。 ・地元中学生がプレートの作成から設置までを取り組むことで、地域の大人の関心度を UP させ、地域全体の防災意識の向上も図る。 ・ピクトグラムの学習を通じて、どうしてデザインを共通化することが防災にとって大事なのかということを考え、できれば海拔表示の統一（ピクトグラム化）の一助としたい。 	
プランの概略	<p>中学生に津波ピクトグラムの入った「海拔表示プレート」をステンシルの要領で作成し、学校区内に設置してもらう。</p> <p>プレートを作成する前に、地震・津波に関する話、浸水予測域と表示板設置箇所の比較やピクトグラムとは何か？という説明を行い、プラン実施の目的をより認識できるようにする。なお、プレート作成に当たっての実施方法などは、できるだけ学校が取り組みやすい方法とする。</p>	
プランの対象と参加人数	<p>串本町内中学校生徒 串本町立串本中学校 73人、串本町立田並中学校 15人、串本町立和深中学校 29人</p>	
実施日時	<p>平成 16 年 11 月 8 日 (田並中学校) 平成 16 年 11 月 25 日 (和深中学校) 平成 17 年 1 月 12 日～2 月 (串本中学校)</p>	
主な実施場所	串本中学校、田並中学校、和深中学校	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	串本中学校、田並中学校、和深中学校 防災ピクトグラム研究会
	連携したきっかけ・理由	串本中学校、田並中学校、和深中学校 → プランの実施を依頼したことから。 防災ピクトグラム研究会 → 津波ピクトグラムの使用方法等について相談したことから
	連携団体へのアプローチ方法	電話、メールほか
	連携団体との打合せ回数	合計 12 時間 10 回
	連携団体との役割分担	串本中学校、田並中学校、和深中学校・・・プラン実施に当たっての進行 (総合学習の時間) 防災ピクトグラム研究会・・・プレート作成方法の教示、プラン実施時の講和

II プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	1名
	外部スタッフの総人数	5名
	主なメンバーの 役職・役割	串本中学校教諭（3名） 田並中学校主任教諭（1名） 実施に当たっての進行等 和深中学校主任教諭（1名） 役場総務課 杉本隆晴
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2003年12月 ～ 2004年1月
	立案時間	およそ10時間
	上記のうち打合せ回数	3回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	中学生に取り組んでもらえるよう、プレートの作り方をより簡単に、また費用がなるべくかからないようにすること	
プラン立案で 苦労した点	中学生のものを作る技術的レベルがわかりにくく、プラン実施時間をどれぐらいに設定してよいか分からなかった。	

III 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	5名
	外部スタッフの総人数	9名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者・広報・渉外 串本町役場総務課主査 杉本隆晴 準備 串本町役場総務課主事 田嶋美夏 串本町役場総務課主事 岡・達史 串本町役場総務課主事 松原邦明 田並中学校教諭 和深中学校教諭 串本中学校教諭 準備・記録 串本町役場総務課主査 佐本 至
準備に要した日 数・時間	準備期間	2004年9月～ 2004年11月
	準備総時間	12時間
	上記の内打合せ回数	
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	串本中学校、田並中学校、和深中学校
	どのように働きかけたか	校長先生と直接お会いして依頼し、教育委員会には後日連絡
	結果	了承

地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	田並自主防災会連絡協議会
	どのように働きかけたか	電話により、海拔表示プレートの設置に協力していただくよう依頼。
	結果	海拔の計測等で協力していただく。
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	プロジェクター、スクリーン、パソコン、消防庁作成啓発用CD「津波から命を守るために!」、型紙、アクリル板、ペンキ、紫外線カットフィルム、両面テープ、のり、コーキング材、マスキングテープ
	入手先・入手方法	プロジェクター、スクリーン、パソコン、消防庁作成啓発用CD「津波から命を守るために!」は役場のものを使用 型紙は印刷業者に発注、アクリル板、紫外線カットフィルムは看板業者で購入、ペンキはペンキ業者ほかで購、両面テープ、コーキング材、のりなどはホームセンター他で購入
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	アクリル板は見た目がきれいになるよう、裏から着色して表から見える透明のものを使用。紫外線カットフィルムはペンキが色あせしないよう使用。啓発用CDは津波の怖さを目で見て知ってもらうため使用
参加者の募集	募集方法	こちらから依頼
	募集期間	年 月 日 ~ 月 日
	参加予想人数	名
	実際の参加人数	名
	募集方法の成功点	
	募集方法の失敗点	
準備で苦労した点・工夫した点		どのようにすれば簡単に作れるか?

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2003 11月			
12月	田並中学校、和深中学校にプラン実施依頼（もし採択された場合）		
2004 1月			
2月			
3月			
4月			
5月			
6月	串本中学校、田並中学校、和深中学校へプラン実施依頼		
7月			
8月			
9月		型紙発注 アクリル板ほか教材発注	
10月	串本中学校、田並中学校、和深中学校と打ち合わせ	プレートの作成方法、プラン実施の進行など プレート設置場所の確認	
11月		当日の進行など再確認	11月8日田並中学校 11月25日和深中学校
12月			田並中学校、和深中学校 （設置）
2005 1月		ペンキ等教材発注	1月12日串本中学校 1月25日 // 1月17日和深中学校（設置）

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(学習の準備段階から授業時間(コマ)毎に記載して下さい。)

コマ	日時	場所	学習内容	教師の支援・指導の留意点	児童・生徒の学習活動	評価の観点	使用機材・教材	苦労した点・工夫した点
1 (2コマ)	11月8日 13:10 13:30 13:40 14:10	田並中学校	当日作成する海拔表示プレート及び、その中にあるピクトグラムに関する学習 プレートの作成(ペンキ塗装) パプアニューギニアでの地震・津波の講和(林勲男先生) プレートの作成(ペンキ塗装)		パワーポイントによる学習 プレートになるアクリル板に青ペンキを塗装 パワーポイントによる学習 プレートになるアクリル板に白ペンキを塗装	ピクトグラムとは何かを理解し、その重要性を学習する。 また、町の浸水予測とプレートの設置箇所の比較を行い、地理状況を再確認する。 パプアニューギニアで発生した地震・津波のことを学習(海岸に人が暮らすという点で串本と似ている)。 人々が津波から避難するのにどのような行動をとったか?(できるだけ高いところか近くで高い場所へ避難) そのような行動をとるためには、海拔表示プレートが有効であることを説明。	スクリーン PC プロジェクター アクリル板 型紙 ペンキほか	ピクトグラムの重要性をどのように子供たちに理解させるか 実施に地震や津波が起こったときに自分たちがどのような行動をとれば良いのかということ子供たちにどう考えさせるか
2	12月20日	田並中学校区	作成したプレートの設置		両面テープ、コーキング材を使用して、プレートを設置。	実際にプレートを設置することで、地図上だけではなく、実際に自分たちが住んでいる地理条件を再確認する。	両面テープ、コーキング材	
1 (2コマ)	11月25日 13:30 13:50 14:10 14:40 15:00	和深中学校	当日作成する海拔表示プレート及び、その中にあるピクトグラムに関する学習 プレートの作成(ペンキ塗装) 地元の方々の昭和南海地震の体験談を4班に分かれて聞く。 「津波から命を守るために!」CD視聴 プレートの作成(ペンキ塗装)		パワーポイントによる学習 プレートになるアクリル板に青ペンキを塗装 学校区の住民の体験談を聞く 消防庁の啓発CDを視聴 プレートになるアクリル板に白ペンキを塗装	また、町の浸水予測とプレートの設置箇所の比較を行い、地理状況を再確認する。 学校区内で昭和21年の南海地震を経験された方4名を招き、その当時の話を聞く。 体験談を聞いて、地震・津波の怖さを感じとった後に、もう一度、消防庁の啓発CD「津波から命を守るために!」を視聴し、実際に津波の映像を見ることで、より具体的に津波に対する認識を深める。	スクリーン PC プロジェクター 啓発用CD「津波から命を守るために!」 アクリル板 型紙 ペンキほか	ピクトグラムの重要性をどのように子供たちに理解させるか 実施に地震や津波が起こったときに自分たちがどのような行動をとれば良いのかということ子供たちにどう考えさせるか
2	12月20日 1月17日	和深中学校区	作成したプレートの設置		両面テープ、コーキング材を使用して、プレートを設置。	実際にプレートを設置することで、地図上だけではなく、実際に自分たちが住んでいる地理条件を再確認する。	両面テープ、コーキング材	

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(学習の準備段階から授業時間(コマ)毎に記載して下さい。)

コマ	日時	場所	学習内容	教師の支援・ 指導の留意点	児童・生徒の学習活動	評価の観点	使用機材・教材	苦労した点・工夫した点
1	1月12日 13:30 14:00	串本中 学校	インド洋大津波、南海地震の発生メカニズムなどの講和(林勲男先生) 作成する海拔表示プレートの説明と その中にあるピクトグラムとは何か?		パワーポイントによる学習 パワーポイントによる学習	12月26日に発生したインド洋大津波での事例を見せながら、津波がどのようなものであるのかということ学習。その上で、自分たちが住んでいる串本町にも、南海地震が発生し津波に襲われる危険性があり、その時にどのような行動をとるべきか?(一番近い高台へ避難し、命を守ることが一番大事) そのために、今回取り組む海拔表示プレートは有効であることを学習する。 ピクトグラムとは何かを理解し、その重要性を学習する。 また、町の浸水予測を紹介して、プレートの設置箇所との比較を行う。	スクリーン PC プロジェクター アクリル板 型紙 ペンキほか	ピクトグラムの重要性をどのように子供たちに理解させるか 実施に地震や津波が起こったときに自分たちがどのような行動をとれば良いのかということ子供たちにどう考えさせるか
2	1月25日	串本中 学校	プレートの作成		型紙に海拔の数字を切り抜く。		型紙、カッター	
3	1月 日	串本中 学校	プレート設置箇所への依頼		プレートを設置箇所の所有者に依頼文を書いて、直接依頼にまわる。			
4	1月 日	串本中 学校	プレートの作成		型紙に海拔を示す数字を切り抜き、アクリル板に貼り付けるための両面テープを貼り付ける		型紙、カッター、両面テープ	
5	2月 日	串本中 学校	プレートの作成		ペンキ塗装		アクリル板、ペンキ	
6	2月 日	串本中 学校区	プレートの設置		両面テープ、コーキング材を使用して、プレートを設置。	実際にプレートを設置することで、地図上だけではなく、実際に自分たちが住んでいる地理条件を再確認する。	両面テープ、コーキング材	

VI実践後

参加者へのアンケート結果	1月12日に実施した串本中学校で、インド洋大津波に関するアンケートを実施（林勲男先生）	
成果として得たこと		
成果物	パワーポイント資料	
広報方法	広報した先	串本町役場記者クラブ
	広報の方法	文書配布
	取材にきたマスコミ	NHK、読売新聞、毎日新聞、紀伊民報、南紀州新聞
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	「NHK ニュース」 「ニュースウエーブわかやま」（NHK 和歌山） 「元気列島特集・神戸発・命守るために」（NHK） 新聞は別添パワーポイント
	成功点	マスコミ向けの資料に「防災教育チャレンジプラン」でプレートを作成することを出していたので、新聞には「防災教育チャレンジプラン」ということを取り上げてもらえた。 当町の記者クラブの全マスコミに取り上げてもらえた。
	失敗点	新聞では「防災教育チャレンジプラン」であることを書いてもらえたが、テレビのコメントには出なかった。 会場に横幕を貼ったり、プラン実施者の服に「防災教育チャレンジプラン」という文字を入れるなどして、画面に嫌でも「防災教育チャレンジプラン」という文字が写るようにすればよかった。
全体の感想と反省・課題	<p>プランの進め方が計画的でなかったため学校に対してご迷惑をかけた点があり、学校との協議がもう少し必要であった。</p> <p>プレートのできばえは、当初予定していたよりもきれいでできて本当にびっくりしました。また、今回のチャレンジプランのワークショップ参加等をきっかけにして、町内外の防災に携わるいろんな方々と知り合えることができ、本当に参加してよかったと思いました。</p> <p>材料面では、この海拔表示プレート作りをもう少し簡単にできる材料（キット的なもの）が用意できればよかったと思います。</p> <p>今回のプランをきっかけにして、防災サインを今後どのように町内に表示するか？、これ以外にどんな表示が必要なのか？といったようなことを、住民の方々が話し合ってもらえ、そのことを通じて町全体の防災意識の向上につながればいいと感じます。</p>	
今後の予定	来年度以降の進め方	今年実践できなかった学校や自主防災組織でも取り組んでいたければ幸いです。
	是非実施してみたい取り組み	<p>今回は海拔プレートの作成でしたが、津波ピクトを使ったデザインTシャツを作って、串本を訪れる観光客に配布（できれば販売）し、地震・津波について知っていただけると共に、その販売したお金で防災関係物資（備蓄品など）を購入できればいいなあと考えます。対象は高校生ぐらいになるでしょうか？</p> <p>その他、小学生を対象とした防災教育として、町内に大変積極的に活動されている「読み聞かせサークル」があるので、そのサークルの方々にお手伝いしていただきながら、昭和南海地震の体験談を紙芝居（できればパワーポイント）を作って、小学生に聞いてもらうようなことができれば良いなあと考えています。</p>